

# 各地駐車協会だより

## ■ 大阪駐車協会の紹介

一般社団法人大阪駐車協会 西尾 隆一

### 大阪駐車協会の紹介

大阪駐車協会は、1959年設立の(社)大阪駐車協会が1988年設立の(社)大阪府駐車場経営者協会へ2004年4月に吸収統合され、その後「大阪駐車協会」へ名称変更を経て現在に至っております。

(社)大阪駐車協会は駐車場業に関する個人・法人が事業調査研究及び情報交換等を目的に親睦を深め、固定資産税の高騰等の業界課題について積極的に行政宛提言を行うこと目的として大阪ビルディング協会の駐車場部会から分離独立して設立され、また、(社)大阪府駐車場経営者協会は府下交通流の円滑化と駐車秩序の確立に寄与する為、個人・中小事業経営者(当時750名)により設立された団体となっています。

都度組織変更を経て、現在の大阪駐車協会は、港区駐車場協会、大阪東駐車協会、大阪法人駐車協会の3団体により構成され、現在の各協会を合わせた総会員数は178となっております。日常的な活動においては、各々の団体が独自に総会、理事会、懇親会等を行っている状況ですが、最近では3団体による合同勉強会を実施しています。2023年度は昨今の電気自動車の普及に伴い、会員の皆様より駐車場内のEV充電器設置に伴う問い合わせが多数あり、また、政府補助金による普及活動も行われている状況もあることから、「EV充電器業界の今後の動向」について、EV充電器設置業者様に協力を頂き勉強会を実施しました。2024年度には、大阪駅北エリアの第2期再開発事業である「グラングリーン大阪」が2025年3月に「街びらき」を行うにあたり、合同内覧会を企画することで街づくり事例の勉強会を実施しました。

また、2025年4月13日より10月13日まで半年間「EXPO2025大阪・関西万博」が大阪夢洲で開催されますが、開催期間中の交通渋滞対策を検討する目的で「2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)に関する駐車場対策協議会」(大阪府・大阪市の万博推進局が中心となり大阪・兵庫エリアの各種駐車協会が参画)に参画し、関係各所と各種対策を検討しております。具体的には、主要ターミナル駅周辺とパーク&ライド駐車場周辺にて、民間駐車場を巻き込んだ「事前予約システム」を導入の上、運用していくこととなっています。

## 大阪の紹介

大阪府は日本の都道府県の中で2番目に狭い面積ですが、西日本の中心的な大都市です。都市部には梅田エリア及び難波エリア等中心部に高層ビルが立ち並んでいる一方、仁徳天皇陵古墳や応神天皇陵古墳など規模が大きな古墳をはじめとして、歴史的建造物も数多く残っています。また、京都、兵庫、和歌山にも足回りもよく東西南北へ往来が容易で各種観光スポットに気軽に訪問することができます。

かつては「大坂」と表記され、「オオザカ」と呼ばれることが多かったのですが、明治元年に現在の「大阪」に変更し、読み方も「オオサカ」になったとのこと。地名の由来は坂のある地形からと考えられているとのことですが、「坂」が「阪」になったのは、「坂」をへんとつくり分解すると「土に返る」と読めることから縁起がよくない、「土が反する(武士にそむく)」という意味を連想させることが理由といわれているそうです。

古くから「京都の着倒れ、大阪の食い倒れ」という言葉があり、京都の人は衣服に、大阪の人は飲食にお金をかけるといわれています。大阪は海の幸や山の幸に恵まれ、江戸時代には「天下の台所」といわれるほど全国の食材が集まってきたため食文化が栄えました。実際、梅田エリア、難波エリアでは、串カツ、寿司、お好み焼き、たこ焼き、カレー、居酒屋、立ち飲み屋等様々なジャンルの店舗が犇めいており、場所によってはお昼から美味しい料理に舌鼓を打ちながらお酒を飲んでいる方々の姿が散見されています。特に難波エリアは、インバウンドの観光客が多数訪れており、ここは日本かというくらい外国人で溢れかえっている状況です。また、大阪の料理が発展したのは、船場商人の存在も関係しており、船場商人が商談のために料理屋を使ったことで、料理人の腕に磨きがかかっていきました。堺で良質な包丁が作られたことや、近隣に灘、伊丹、池田などの名酒の産地があることも、大阪の料理の質が向上した理由といわれているとのこと。

「大阪人が2人寄れば漫才になる」といわれるほど、大阪には笑いの文化が根付いています。大阪は笑いの聖地といわれていて、お笑いや演芸を楽しめる劇場が多数ありますが、中でも有名なのが難波にある「なんばグランド花月」です。ベテラン芸人や若手芸人まで吉本芸人のお笑いを生で楽しめるスポットです。また、一般の在阪の方々においても、電車の中やタクシーの中、或いは各種飲食店ででも、ボケ、ツッコミの応酬に溢れかえっています(個人的感想)。

## 最近のみどころ

### ① グラングリーン大阪

大阪駅前の再開発プロジェクト「グラングリーン大阪」が2024年9月6日に先行まちびらき、2025年3月21日に南館がグランドオープンしました。

うめきた地区は、旧梅田貨物駅にあたる約24haの区域を指し、1日約240万人が行き交う西日本最大のターミナルエリアに位置しています。このポテンシャルの高さから、「大阪都心に残された最後の一等地」と言われており、官民共同の第1期開発として丁度12年前の2013年4月

に「グランフロント大阪」が開業しましたが、今回が第2期の開発開業となります。オフィス、商業のほか、スーパーラグジュアリーホテル「ウォルドーフアストリア大阪(ヒルトン)」を含む3つのホテル、イノベーション発信施設「JAMBASE」といった複合施設となっています。特に注目したいのが、開発エリアの中心部に配置した「うめきた公園」です。大規模ターミナル駅直結の都市公園としては世界最大級の規模(4,500㎡)を誇っており、まちづくりの目標である「『みどり』と『イノベーション』の融合拠点」を具現化しております。うめきた公園には多数の方々にご来場いただき緑の芝生の上で楽しんでいただいております。是非ともあらたな都市公園の姿を芝生にお座り頂きながら楽しんで頂きたいと思ます。



写真提供：  
グラングリーン大阪開発事業者

## ②EXPO2025大阪・関西万博

いよいよ本年4月13日より10月13日までの6か月間、夢洲にて「EXPO2025大阪・関西万博」が始まります。「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとして、約150の国と25の国際機関をはじめ、企業やNGO/NPO、市民団体等が世界中から各種取り組みを持ち寄り展示していきます。

近未来の移動手段である「空飛ぶクルマ」、海外パビリオンでは、わび・さびをイメージした「アメリカのパビリオン」や庭園とレストランを融合させた「イタリアンパビリオン」等の展示、日本パビリオンでは国・民間を合わせて17パビリオンで、万博テーマについてプレゼンテーションする「日本館」、関西の魅力、伝統をテーマにした「関西パビリオン」、笑いがテーマの「よしもとwarai myrail館」、実物大ガンダム像を展示の「GUANDAM NEXT

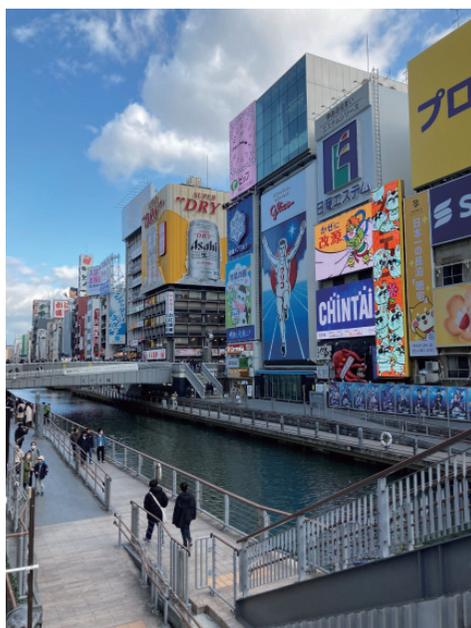
FUTURE PAVILION」など日本ならではの文化・芸術を発信しております。また、企業パビリオンとしては、パナソニックグループパビリオン「ノモの国」、三菱未来館などなど、多数の展示館がてんこ盛りとなっています。

また、注目は世界最大の木造建築物にギネス認定された「大屋根リング」。全長2025メートル、建築面積61,035㎡となり、全周は万博開催時期「2025年」に合わせたことは豆知識です。この木造建築の枠組みは、京都の清水寺と同様の工法となっているとのことですが、この建築担当の各JV(大林組、竹中工務店、清水建設)が現代版にアレンジし各社の技術力を競ったと聞いております。

何かと話題になったイメージキャラクター「みゃくみゃく」も皆様に随分と馴染んだ(?)とところで、ぜひとも大阪万博にご来場いただき楽しんでいただきたいと思います。

### ③水都大阪クルージング

大阪は水運を利用して経済・文化が都市として発展し、昔は「水の都」と呼ばれていたとのこと。大阪の中心街をコの字型に川が囲っていることで、「水の回廊」が形成されており、この河川空間の整備・ライトアップ化が官民を挙げて進んでおり、この回廊を活用したクルージングツアー企画が沢山あります。中之島エリア、大阪城エリア、ミナミエリア、ベイエリア等に遊覧船が発着しています。遊覧船に揺られながら、水辺の景色・街並み、歴史、文化施設等に触れることができますし、また、落語家がツアーコンダクターとなる遊覧企画もあり、笑いを交えながら大阪を存分に堪能することができます。特にグリコマークのある「戎橋」を通過する際には、周りの人が手を振ってくださったりして、何となく優越感にひたりながら存分に楽しむことができます。是非ご体験いただきたいと思います。



#### ④飲む・食う・喋る

食い倒れの街、大阪。安くて美味しいお店が沢山あります。また、大阪文化だと勝手に理解しておりますが、人と人の距離感が非常に近接しており、狭い立ち飲み屋やスナックに行ったりすると、偶然居合わせた隣のお客さん(老若男女問わず)と仲良く飲むことも多々あります。ある訪問したお店で、先客の男女が大勢で盛り上がっていることから、会社関係か知り合い関係の団体客かなと思っていたところ、その輪に入ってみると皆さん初対面ばかりだ！といったこともありました。

斯く状況下、難波、梅田他すべてのエリアで素晴らしいお店がありますが、個人的には、大阪駅前ビル1号館～4号館の店舗群をお薦めしたいです。大阪駅と北新地の間に林立する巨大なビルで、各ビル1階から地下2階にかけて巨大な商業モールが形成されています。居酒屋をはじめ、日本料理、焼き鳥、串カツ、ラーメン、カレー、そば、お好み焼き、たこ焼き、フレンチ、インド料理などなどほぼ全てのジャンルを網羅しています。しかも昭和レトロ感が満載で東京のサラリーマンの聖地「新橋」エリアの全ての店舗をビルに詰め込んだような感じです。しかも激安でコストパフォーマンスが非常に高く、お店によっては「千ペロ(千円でペロペロになるまで酔っ払うことが出来るの俗語)」が楽しめる立ち飲み屋もあります。日中でもお酒を楽しんでいる姿も散見されます。

大阪駅前ビルにご来場いただき、是非とも大阪食文化をご体験頂きたいと思います。

